

茅野出身の教育学者 長田新の四男

歳

長田五郎氏（経済学者）が死去

95



原爆体験文集「原爆の子」
広島少年少女のうったえ」

を編さんした茅野市豊平出身
の教育学者、長田新（1888
7～1961年）の四男で、

「原爆の子」の普及と反核平
和運動に取り組んだ経済学者
の長田五郎（おさだ・ごろう）
氏が18日、都内の自宅で死去
した。95歳だった。葬儀・告
別式は26日午前11時から代々
幡斎場（東京都渋谷区西原2
の42の1）で。喪主は妻の眞
澄さん。

長田新は1945年8月6
日、広島市の爆心地から1・

6^{キロ}離れた自宅で被爆。当時

18歳の大学生で帰省していた

五郎氏も被爆したが、父の救

護に当たり、奇跡的に一命を

取り留めた。父新は広島文理

科大学（現広島大学）学長を

経て51年10月に「原爆の子」

を発行。「日本子どもを守る
会」の発足に加わり、初代会
長に就任した。

父の遺志を継ぎ

反核平和に尽力

五郎氏は父の遺志を継ぎ、
子どもへの幸せと恒久平和を願
い、「原爆の子」の普及と反核
平和運動に生涯をささげた。
2015年9月には茅野市で
開かれた「長田新に学ぶ教育
シンポジウム」にパネリスト
として出席。元明星大学教授、
横浜国立大学名誉教授、日本
子どもを守る会常任理事、日
本ペスタロッチャー・フレイベ
ル学会会員を務め、父の残し
た文献資料の整理と保存に精
力的に取り組んでいた。